

海上の森ミニセミナー第15回

野生きのこの見分け方 <観察のポイントを学ぼう>

日時：平成29年10月28日（土）13時30分～15時00分

話題提供者：木村 修司 氏（三河きのこ会）

◇ きのこの見分け方

きのこを見分ける時には、どういうところに着目したらよいか。

- ・ハラタケ類：傘と柄がある（シイタケ、マツタケなど）
- ・サルノコシカケ類：柄がない（カワラタケなど）
- ・腹菌類：球形（クチベニタケ、シラタマタケ、ホコリタケなど）
- ・キクラゲ類：不定形（キクラゲ、シロキクラゲなど）
- ・子のう菌類：変わった形（ズキンタケなど）



これらのうち、今回はシイタケなど「ハラタケ類」の見分け方を中心としたお話。

● 色

◎傘、ヒダ、柄の色が同じものもあれば違うものもある

- ・チシオハツ：傘は赤色、柄は白色
- ・トガリベニヤマタケ：傘も柄も橙色（ヒダだけは白い）
- ・アキヤマタケ：傘も柄も同じ透き通った色
- ・クサイロハツ：傘は緑色、柄は白色
- ・ソライロタケ：傘もヒダも柄も青色
- ・ナスコンイッポンシメジ：傘と柄は紺色、ヒダは白色
- ・ハイムラサキフウセンタケ：傘と柄が紫色



◎傷つくと色が変わるきのこの例

- ・コウジタケ：傘の裏側は元々黄色。触っていると青色さらに褐色に変色する。



● 傘

◎ 傘の表面の形

傘の形もキノコを見分けるポイントとなる。

大雑把に傘の形で見分けると、種類が見分けやすい。

- ・半円形 : アカヤマドリ
- ・饅頭形 : ミドリシメジ
- ・つりがね形 : ヒトヨタケのなかま
- ・平形 : ナカグロモリノカサ、テングタケのなかま

釣鐘型



◎ 傘の上

- ・付着物 : ベニテングタケ

付着物はきのこのこの一部。

卵の状態のときの「殻」の一部が傘に付着している状態。

- ・ヌメリ : ナメコ

ヌメリのあるキノコとないキノコ、その中間もある。

(雨の日にはヌメリの少ないキノコもぬめってくる。)

- ・条線 : テングツルタケ

傘に条線があるキノコ、傘の縁だけ条線のあるキノコもある。

- ・痘痕 : ウラベニホテイシメジ

傘の表面に痘痕模様が出る。

- ・ささくれ : クロトマヤタケ

「付着物」とは異なる。傘の表面がささくれて毛羽立つ。

付着物



● 傘の裏

◎ ヒダ (胞子を作る際、表面積を大きくする役割)

- ・ヒダが密にある : ツチカブリモドキ
- ・ヒダが疎ら : ホウライタケの仲間
- ・ヒダが柄に垂れ下がっている : オトメノカサ
- ・皺状のヒダ : サケバタケ

※小ヒダの有無、分枝なども見分けのポイント。

ヒダが密にある



◎ 網状 (イグチのなかま)

丸い管孔、角ばった管孔 (コショウイグチ)、

放射状の管孔 (ミダレアミイグチ)

丸い管孔



● 柄

- ・ **ツバ** :きのこの傘が開くときに張っていた膜がちぎれてはがれたもの。
膜状のもの、糸状のものがある。(ザラエノハラタケ)
- ・ **ツボ** :きのこの卵の状態から柄が伸びるときに、傘と分離した部分。(タマゴテングタケモドキ)
- ・ **ささくれ** :柄がささくれ状になる。(ササクレシロオニタケ)
- ・ **網目** :柄に網目状の模様が入る。(ミカワクロアミアシイグチ)
- ・ **だんだら模様** :柄にだんだら模様が入る。(タマゴタケ)



きのこは柄と傘しか見分けるところがないので、どこか違いを見つけないとわからない。また、1万種類以上あるきのこのうち、図鑑に載っているのは1000種類程度。そのため、「図鑑のどれにも当てはまらない」ということがよくある。それを「8割合っているから」などと無理やり当てはめようとして食べてしまうと、食中毒を起こしてしまう。

● 幼菌と老菌

きのこは「花」と同じように、昨日の姿と明日の姿は異なる。

図鑑に載っているのはきのこの成長過程の「一瞬の姿」でしかない。同じ場所に何本も生えていればわかりやすいが、1本だけの場合、見てもわからない事がある。

そのため、図鑑に当てはめる時に、その時の姿で別の種類と同定してしまうなどの間違いが起きないようにしなければならない。



同じ種類のきのこでも違いがある。

観察会では、多くの人がきのこを採取するため、同じ種類で成長過程の異なるものが集まるためわかりやすく、においや透明感・肌ざわりなど図鑑にない情報も得られる。

見分けができるようになるためには、「見慣れる」ことが必要。観察会に行って慣れ親しむことが、一番効率が良い。何回も馴染むことが見分けへの近道。



◇ 毒きのこと食用きのこ

● 毒のあるハラタケのなかま

・ 紹介されたキノコ

オオシロカラカサタケ

(荒子川公園で起きた食中毒事件はこれによるもの)

カラカサタケ、ハラタケ、アカキツネガサ、ウスキモリノカサ、オニタケ、キツネノカラカサ、キツネノハナガサ、コガネキヌカラカサタケ、ザラエノハラタケ、ツブカラカサタケ、ナカグロモリノカサ、ハラタケモドキ、ワタカラカサタケ

オオシロカラカサタケ



● 食用きのこ

食用きのこには似たものが多いので注意。

枯木に生えるきのこ（分解する役割）は栽培しやすい。植物と共生・一部植物に栄養をもらっているきのこは栽培できない。

昔は集落や田んぼの周りにマツ林が多く、マツ林に生えるキノコが多かった。現在ではマツ林は雑木林に代わり、雑木林に生えるキノコがみられるため、キノコの種類は昔よりも増えている。

・ 紹介されたキノコ

ウスヒラタケ、ヒラタケ、サクラシメジ、アイシメジ、エノキタケ、オオキツネタケ、キツネタケ、シイタケ、シモフリシメジ、シャカシメジ、スミゾメシメジ、ナラタケ、ニセマツタケ、ブナシメジ、ハタケシメジ、シロマツタケモドキ、ホンシメジ、ヌメリツバタケモドキ、ウラベニガサ、カラカサタケ、マツタケ、ムキタケ、タマゴタケ、ササクレヒトヨタケ、ヌメリスギタケ、ヌメリツバタケモドキ、フミズキタケ、ヤナギマツタケ、クリタケ、シロナメツムタケ、ナメコ、クリフウセンタケ、ショウゲンジ、ムラサキアブラシメジモドキ、カワムラフウセンタケ、アカヤマドリ、アミタケ、オウギタケ、オニイグチモドキ、シロヌメリイグチ、チチタケ、ハナイグチ、ベニバナイグチ、ムラサキヤマドリタケ、ヤマドリタケモドキ、ヤマイグチ、アカモミタケ、ハツタケ、ウスムラサキホウキタケ、アンズタケ、オオムラサキアンズタケ、トキイロラッパタケ、マイタケ、コウタケ、クロカワ、ニンギョウウタケ、シロカノシタ、カンゾウタケ、ブナハリタケ、ハナビラタケ、ホコリタケ、オニフスベ、ノウタケ、ショウロ、キクラゲ、シロキクラゲ、アラゲキクラゲ、ハナビラニカワタケ、アミガサタケ、オオゴムタケ

食用きのこ



◇ 最後に

種類が分からないうちは口にしないこと。

図鑑で、食べられるとされているきのこでも生で食べると中毒するきのこがあります。よく火を通すこと。

